

田島弥平（1822年 - 1898年）の革新の結果、島村地域は蚕種の繁殖と繭の産地として着実に成長した。最高品質の蚕種の飼育と繁殖を専門とする、弥平の親戚である田島武平（1833-1910）。武平は、繭の生産量をさらに増やすための賢い方法を思いついた。地元の蚕農家に蚕種を売るかわりに貸し出すことにした。農民が繭を生産し、生糸を売ることができれば卵の代金を払うことができる。卵を売るのではなく貸し出すことで、貧しい農家でも現金を使わずにカイコの飼育を始めることができ、その結果、絹の生産量が大幅に増加した。それはまた、タジマが最高の卵を繁殖し続けるという強い動機があったことも意味していた。田島武平の家はまだ残っており、彼の子孫は養蚕業のために使用されていた2階を博物館に変えた。そこでは、入館者は積み重ねられた古い貸し出し台帳を見たり、カイコの卵の栽培方法について学んだり、その地域の蚕農家から集められた他の遺物を見ることができ、博物館は、1800年代後半に建てられた他の農家が近所にある田島弥平の住居から数百メートル離れた場所にある。